

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.38
2015. February

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

第1回沖縄県DPAT研修会が開催されました

副院長 大鶴 卓

平成27年12月9日に精神保健福祉センターで第1回沖縄県DPAT研修会が開催されました。DPATについてご存じでない方もいるかもしれませんので、DPATの紹介をさせていただきます。

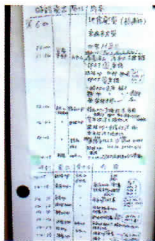
自然災害や犯罪事件・航空機・列車事故等の集団災害が発生した場合、被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下し、災害ストレス等により新たに精神的問題が生じる等精神保健医療へのニーズが拡大します。そのため、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、他の保健医療体制との連携、各種関係機関等とのマネジメント、専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援が必要となります。東日本大震災時に心のケアチームとして沖縄県や当院からも長期に渡り支援を続けましたが、その後の検証作業で①急性期支援の必要性、②統括の必要性、③平時からの準備の必要性の3点が課題として上がりました。



その課題を克服し、災害急性期より長期に渡り効率的な精神保健医療を提供できるよう平成25年にDPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) が設立されました。DPATは、都道府県及び政令指定都市によって組織された専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チームで、被災地のニーズに応じ数週間から数ヶ月継続して派遣されます。既に平成26年8月の広島市土砂災害、平成27年9月の関東東北豪雨災害に派遣され活動しています。DPATのマニュアルや活動内容を詳しく知りたい方はDPAT事務局のホームページで確認ください。

平成27年末に沖縄県で正式にDPATが登録されました。現在、県内で登録されているDPAT隊は平和病院、精和病院、オリブ山病院、琉大医学部附属病院、新垣病院、博愛病院、平安病院、南部医療センター・子ども医療センター、県精神保健福祉士協会、琉球病院の10機関の17チームです。琉球病院DPAT隊は沖縄県から先遣隊として任命され、約20名の隊員で活動しています。DPAT先遣隊は発災後72時間以内に被災地に入り、現地活動を始めることが求められており、そのために全国・九州・県内・院内で様々な研修や訓練を続けています。

沖縄県で災害が起きた時に連携し、より効果的な精神保健医療を提供することを目的に、平成27年12月9日に第1回沖縄県DPAT研修会が開催され、約50名の県内DPAT隊員が集まりました。全ての講義や演習は琉球病院DPAT隊が担当し、1日間と限られた時間の中で指揮命令系統 (CSCATTT)、身体トリアージ、ロジステックス、クロノロ、サイコロジカルファーストエイドなど普段の精神科臨床では触れることはありませんが、災害医療では基本となる講義や演習を行いました。



来年度以降も沖縄県DPAT研修会は継続開催されることは決まっており、県内のDPAT整備に琉球病院DPAT隊は全面的に協力したいと考えています。平成28年は県や那覇市で行われている大規模総合防災訓練にDPAT隊として参加したいと考えており、他団体との連携も深めていきたいと考えています。

院長

福治康秀 (ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。



1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- ・一般精神科
- ・子ども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期 ユニット 4床
- ・重症心身 障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス / 那覇BS (下り) または名護BS (上り) より沖縄バス
「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車 / 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第2期)工事 (株)浅沼組
新病棟 (第1期工事) 完成 平成27年7月

教育・研修

- ブリーフ・インターベンション研修会
日時：平成28年2月19日 (金) 8:30 ~ 17:00 場所：琉球病院3階研修棟
対象者：医療・職域・地域等の現場で健康管理・飲酒運転対策に携わる保健師・看護師・ソーシャルワーカー、健康管理・飲酒運転対策に関わる者。

● 地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。アルコール依存症 (アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、修正型電気けいれん療法 (m-ECT) 認知症、児童・思春期医療など、様々な疾患に対応できる診療体制を整えております。中北部地域を診療圏としておりますが、沖縄県全域からの相談にも対応しています。地域の皆様により質の高い医療が提供できているよう日々努力していきたく思っております。受診のご相談は、お気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。

お問い合わせ時間

8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370



空床状況

精神科病棟 8床	認知症 2床	アルコール 8床	児童思春期ユニット 2床
-------------	-----------	-------------	-----------------

1月26日現在

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例は157例になりました。平成27年12月のCLZ導入は2例でした。2例とも他の病院からのご紹介例で、うち1例は入院中の患者様でした。これまでにCLZ治療前に暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くなりましたが、CLZ継続例では問題行動もなくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT（修正型電気けいれん療法）による治療を行っております。平成27年12月の治療実績は3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

こども心療科では「子どもの心の診療ネットワーク事業」について掲載したパンフレットを作成しました。現在、新患の待機期間が長くなっていますが、今後この事業を進めていく中で地域や他の医療機関との連携を図り、役割分担を進め、待機期間の改善に努めていきたいと考えております。



認知症医療

認知症は高齢化社会の進展にともない、患者数が増えていく事が話題となっています。いろいろな統計がありますが厚生労働省は近く400万人を超え、前認知症(MCI)患者も含めると800万人を超えると発表しています。この増えていく認知症患者をどうするかという対策が、政策課題として大きな問題になっています。

この高齢化社会を個人の生き方として考えると、誰もが認知症になる確率が高くなっていく事を意味します。人は長生きすると、年齢と共に認知症になる確率が高くなります。80歳以上になると4人に1人が認知症だと云われています。誰もが高い確率で認知症になる可能性があるということです。しかし、4人に1人が認知症ということは、残りの3人は認知症でないということです。

認知症にならないためにはどうしたらよいか。まだ原因はハッキリしないために、なぜ認知症になるのか、逆に言えば、どうしたら認知症にならないかを示すことはできません。ただ、漠然とですが認知症を予防する防御因子と認知症に罹りやすくなる促進因子が分かっています。防御因子は、食事のとり方や睡眠のとり方、運動や趣味の持ち方、人との付き合い方など生活習慣に関わることがたくさんあります。また、認知機能の改善、認知症の予防に有効だと云われている認知リハビリテーション(脳の高次機能へ働きかけるリハビリ)もあります。デュアルタスクや酸素運動、シナプソロジー、スクエア・ステップ、フマネット運動、体のストレッチといった認知機能の活性化につながるプログラムがいくつも開発されています。

当院では、認知症への防御因子に関する勉強会を毎月木曜日に行っている家族教室で行っています。そして、認知症予防に実際に取り組んでもらう認知リハビリテーションを、今年4月から「もの忘れ予防教室」として始めます。認知症予防に関心がある方は、地域医療連携室へお尋ねください。

重症心身障がい医療

インフルエンザの流行が心配な季節となりました。当病棟では暖房・加湿器を使用し、対策を行っています。さて、現在当病棟では、利用者の皆様お1人ごとの個別支援計画書の当年度評価・次年度計画に関するケア会議を行っています。この会議では、看護師・作業療法士・児童指導員・保育士などの各職種が集まり、利用者さんへの対応やケアについて協議します。9月の中間評価でもこのような会議を行います。年2回の話し合いを行うことで、利用者さんに関する気づきが深まる感じを受けています。これら会議を行った後に、個別面談の形で医師・師長・児童指導員・保育士が家族や成年後見人の方へ、日頃の利用者さんの様子をお伝えしています。福祉サービスを行われている事業者の皆様からすれば当然かと思われるのですが、福祉サービスでありながら医療や看護の面の情報提供も行う、当院の療養介護というサービス内容は、やや特殊かと思えます。市町村の認定区分調査や病棟見学など、時に地域の皆様に病棟へ来棟して頂く機会がありますが、当病棟へお越しの際は、様々な角度からご意見を頂ければ幸いです。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では12月現在、外来通院の患者様66名、入院中の患者様19名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

県内で最も寒いと言われる2月の時期になりました。この時期は体調管理が難しい時期でもあります。インフルエンザの流行の兆しがあります。訪問利用者様も、例外ではなく風邪予防の大切さを説明しています。訪問スタッフも体調管理に気を遣います。体調を整える。睡眠をしっかり取る。外から帰ったら手を洗う。うがいをする。しっかり食事を摂る等、お互いに気をつけることが大切です。

訪問利用者様も200名をこえ、北部は国頭村～中部は浦添市まで駆け回っています。日々の生活で困っていることや、今年新たなことにチャレンジしたいと思う利用者様、ご家族・支援者様は訪問看護師と共に取り組んでみませんか。

臨床研究部活動状況

『さいがた医療センター野村照幸先生を招いて』

2016年1月12日、さいがた医療センター(筑波大学大学院)の心理療法士野村照幸先生をお招きし、「認知機能障害」「MCT(メタ認知トレーニング)について」「患者中心の精神医療に向けてークライシス・プランによる医療の自己決定ー」の3つのテーマについてご講演いただきました。統合失調症患者様の認知機能の特徴と支援の方法、認知行動療法のひとつであるメタ認知トレーニングの実際、再発を防ぐためのクライシス・プランの作り方、使用方法など、盛りだくさんの内容でした。参加したスタッフの感想として、認知を変えてみる実感を得られたり、自分のクライシス・プランを作ってみて、作成の難しさを実感したスタッフが多かったです。いずれもすぐに臨床実践で役立つ学びの多い講演でした。

